

令和8年度 第4回 筑後川水系渇水調整連絡会（幹事会）

参考資料

令和8年8月20日
筑後川水系渇水調整連絡会
事務局

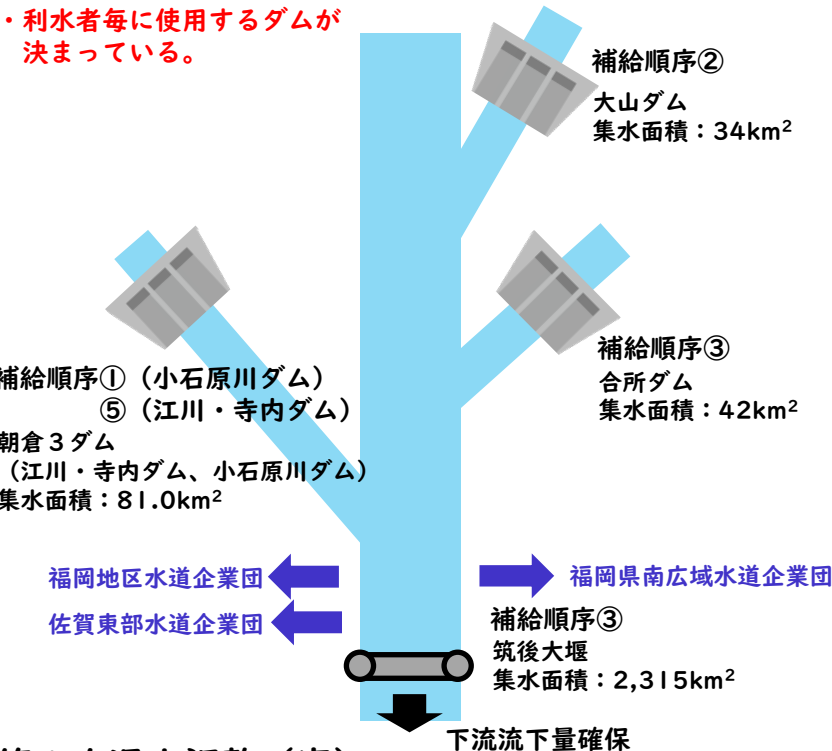
第Ⅰ次渇水調整（案）補足資料

- 既存施設をより効果的に運用することで、水源の延命を図り、市民生活・社会経済活動への影響の回避又は緩和につなげる。
- このため、回復力が高い施設※を先行使用するなど、通常時とは異なる運用を行う。

※回復力が高い施設・・・集水面積が広く、貯留できる機会が高い施設

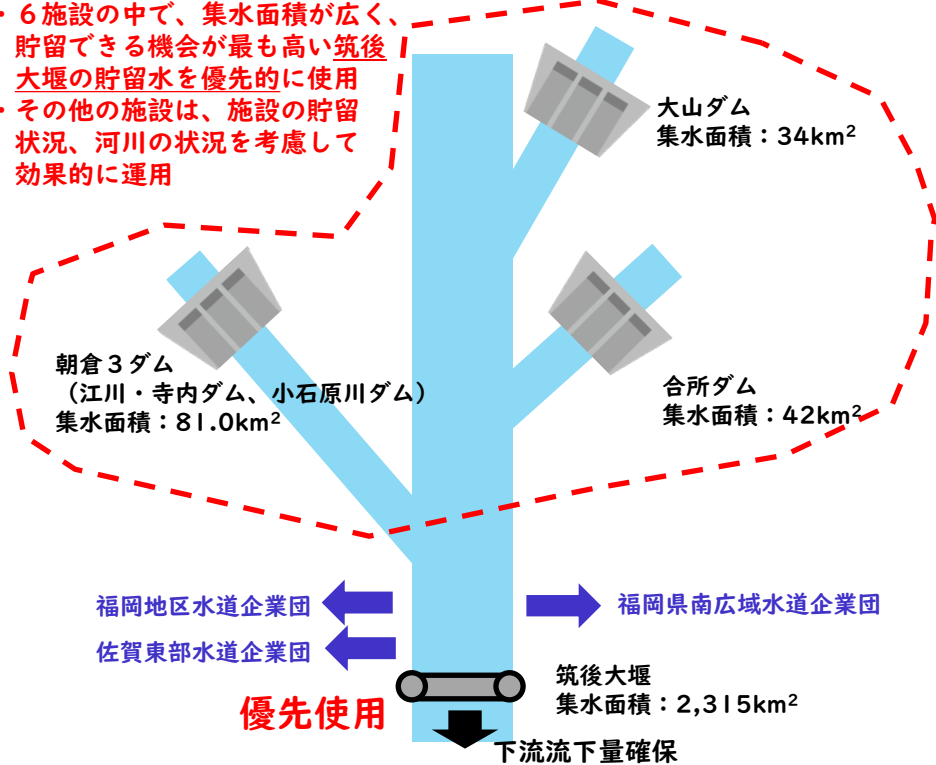
■通常時

・利水者毎に使用するダムが決まっている。



■渇水調整（案）

- ・ 6施設の中で、集水面積が広く、貯留できる機会が最も高い筑後大堰の貯留水を優先的に使用
- ・ その他の施設は、施設の貯留状況、河川の状況を考慮して効果的に運用

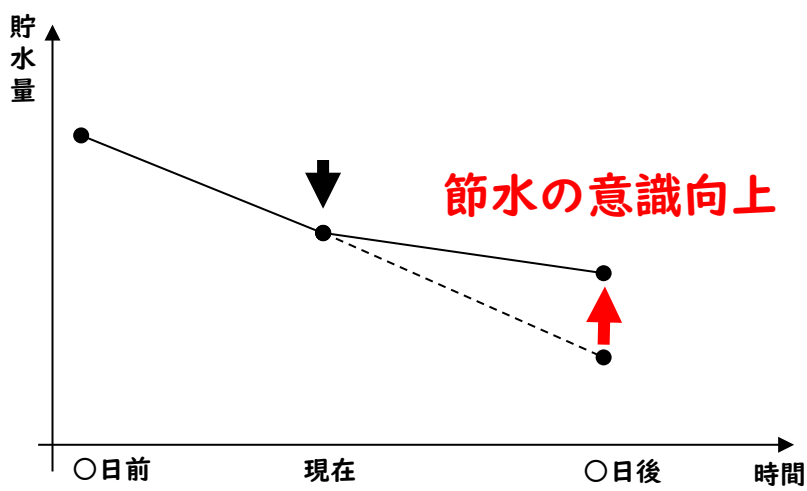


第Ⅰ次渇水調整（案）

ダムの補給水を効率的に活用するため、福岡地区水道企業団、福岡県南広域水道企業団及び佐賀東部水道企業団は、江川ダム、寺内ダム、筑後大堰、合所ダム、大山ダム、小石原川ダムの貯留水の統合運用を行う。

節水の意識向上と渇水対応イメージ

- 市民生活や社会経済活動に支障をきたす『給水制限（時間断水）』をできる限り回避するには、早めの対応が肝心。
- 行政機関・水道事業者等のもとより、地域の一人一人の節水等の取り組みが、これからの事態の延命・緩和に効果を生む。
- 筑後川流域・関係地域で生活・活動されている方々で、一緒に限りある水資源をコントロールし、危機的な渇水を未然に回避する。

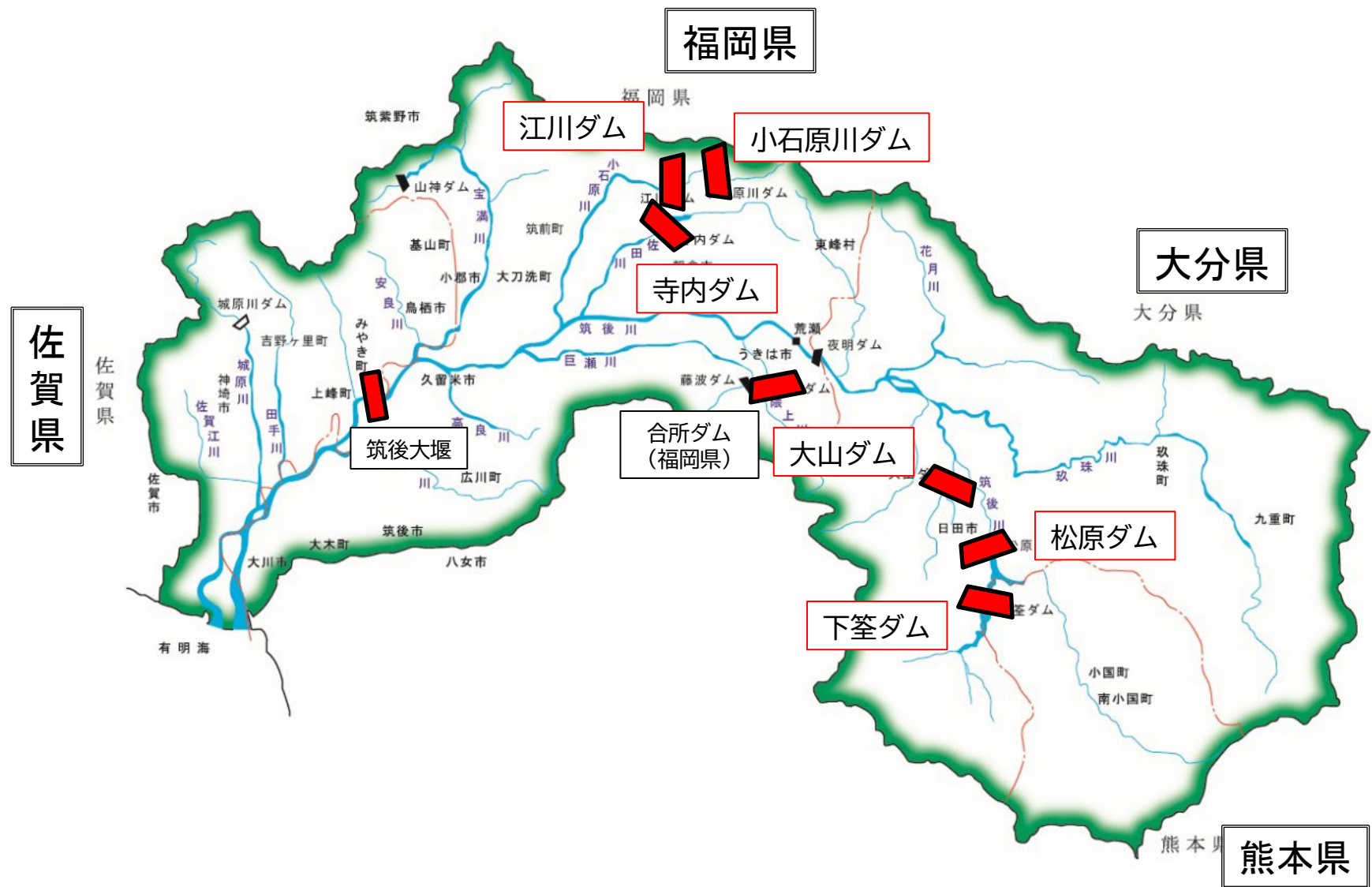


例えば・・・
※3リットル = 一般的な水道蛇口で15秒間程度。
※水利用者約350万人(想定)
一人一人が15秒間だけ水道利用を控えると、
 $350万人 \times 3リットル = 1050万リットル \approx 10.5千m^3$
の節水になる。
これが1ヶ月間続くと、約30万m³となり、主要利水6施設の1日の低下量と同等となる。

平常時		渇水対応			
		・気象の長期予報の内容 ・ダム貯水率等の現状			
渇水段階	あらかじめの対応（平常時）	渇水対応の準備時	渇水時	深刻な渇水時	危機的な渇水時
給水制限	—	減圧給水			
町国 村・都道府県・市	調整・対応等 ◆水資源開発施設の整備が必要な地域での水資源開発の取組 ◆雨水・再生水の利用促進 ◆水融通・応援給水体制の検討 ◆地下水保全・利用ルールの検討 ◆応援給水等の供給先の優先順位の設定の検討	◆渇水対策本部等の体制の整備 ◆節水・渇水に関する広報 ◆広報・メディアとの連携	◆公共施設の節水（プール、公園の散水、噴水の中止等） ◆情報の提供・共有	◆用途間転用（許可水量の範囲内で転用） ◆水融通・水輸送や優先給水の調整 ◆自衛隊出動要請	◆緊急病院等への緊急水の指定 ◆転院の支援 ◆衛生施設（トイレ）の確保
者ダム 供水等の事業者等	（水を供給する方側策） ◆施設の改良による利水機能の増強（ダムの嵩上げ等の再開発、貯水池掘削・浚渫による容量維持等） ◆複数ダムの統合運用など異常渇水時のダムの運用ルール設定 ◆緊急給水施設等の整備 ◆水融通・水輸送の事前準備 ◆節水、雨水・再生水の利用	◆海水淡水化施設、給水タンク、輸送のためのトラック、水備蓄（ペットボトル等）等の事前準備 ◆渇水対策本部等の体制の整備	◆節水の呼び掛け ◆給水制限（減圧）	◆水融通の調整 ◆給水制限（時間暖水） ◆複数ダムの統合運用	◆広域的な水融通 ◆病院、福祉施設への優先給水 ◆緊急給水（ペットボトル等）
産業・住民等	（水を使用する方側策） ◆水を必要とする方側策	◆一般家庭の節水（風呂、洗濯、洗車等の節水）	◆農業用水の番水、反復利用	◆生活様式の変更 ◆工場の作業短縮	◆最低限の水利用

注）本イメージ図はシナリオの一例であり、想定される影響・被害、渇水対策は、各流域の特性等により異なる。 -2-

貯水池の状況写真施設位置図



各ダムの貯水池の状況

寺内ダム貯水池状況



江川ダム貯水池状況



各ダムの貯水池の状況

小石原川ダム貯水池状況

小石原川ダム現状(R8.8.19:EL325.59m)



平常時最高貯水位付近の状況(R7.6.6:EL348.39m)



大山ダム貯水池状況

大山ダム現状(R8.8.19:EL241.92m)



平常時最高貯水位付近の状況(R7.7.30:EL244.61m)



各ダムの貯水池の状況

松原ダム貯水池状況



下笠ダム貯水池状況

